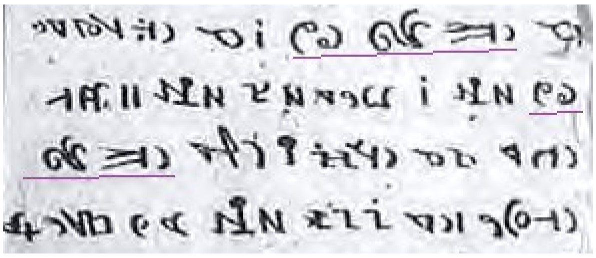
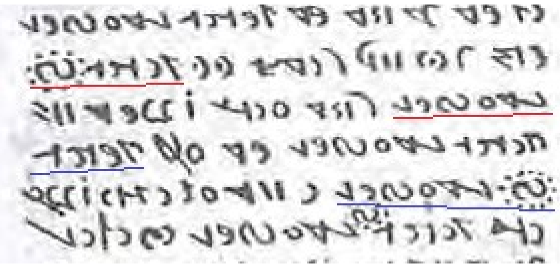
レヒニッツ写本 考察01

筆順は右から左の方向です。
例えば11左ページを見ますと、次の様に書かれています。ほとんどのページでも解りますが、各行の右頭が揃っていますが、左端は不揃いです。

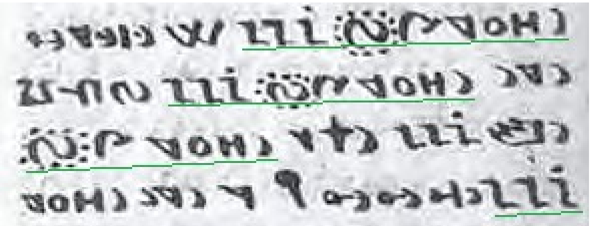


レヒニッツ写本 考察02

筆順は上から下の方向です。
例えば20左ページを見ますと、次の様に書かれています。



ここで、赤下線の部分と青下線の部分は同じ単語・文節と考えられますが、記載方向は上から下の方向となっています。
この例はたくさんありますが、もう一つ59右ページを見てみましょう。



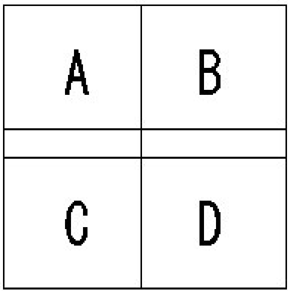
この3箇所の緑下線の部分は同じ単語・文節と考えられます。

それでは、逆の例は無いのかと言いますと、いくつかはあります。
例えば上の例の11左ページを見ますと、紫下線の部分は同じ単語・文節と考えられ無くはないです。
しかし長い文節は見つかっていませんので、筆順は上から下の方向であると考えました。

たぶん11左ページの例ではそれぞれ違う単語でしょう。

レヒニッツ写本 考察03

ページの進行方向。
下の文章は97と98ページです。それぞれのページをABCDと区分けします。

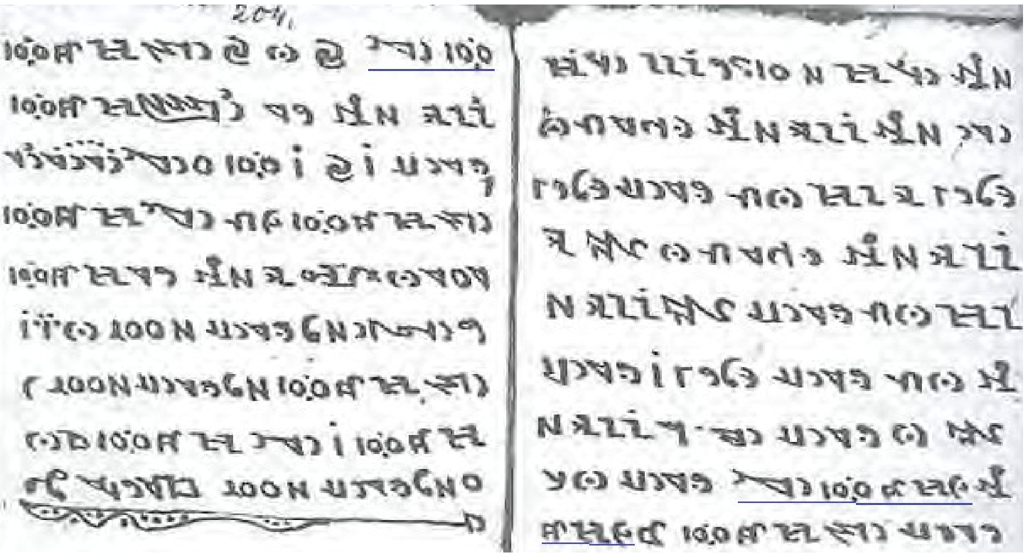


97左ページ(A)に薄く映っている絵は、98右ページ(D)の絵です。前後のページにこのような絵はありませんので、ページの進行方向は、
(1) B-A-D-C か (2) C-D-A-B です。

実際に紙を折って文字を書きますと、目線の動きからは(1)の方が楽です。
つまり、縦書きの日本語本の様に進む様です。

同様の事は4-5ページ、13-16ページ、8-10ページなどに見られます。

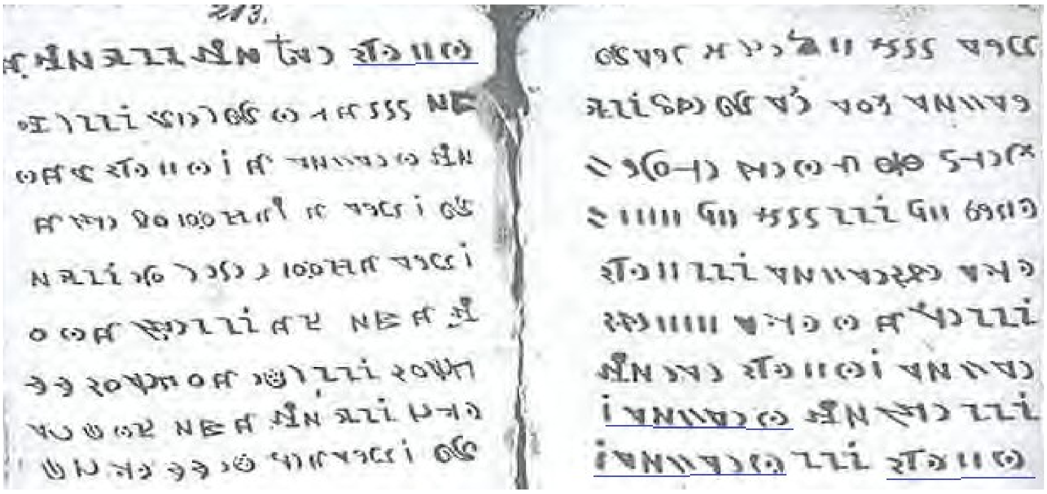
別の見方から(1)の例を一つ上げます。これは204ページです。



二か所の青下線を見ますと、同じ文か単語の様ですが、片方はページをまたぎ、読み順としては204右の次に204左ページとなります。

この本の底を手前にして綴じた側を左に置きますと、本の一番上が最後のページになります。横書き本のページ進行に慣れた方は戸惑うでしょう。

もう一つ(1)の例です。213 ページです。



同じく青下線の部分から、読み順は右ページから左ページとなります。

レヒニッツ写本 考察04

挿絵の人物について。
人物画で描かれた位置と方向で、絵に意味があります。
いくつかを除いて分類しますと、次の三つになります。

(1)左方向だけ向いた人物画

例は 69 左ページです。
左方向ばかりを向いている場合は、お祈りの場面です。
主に自然や他の人物に対する願いです。
手に持っているのはお祈りの中身です。

(2)両方向に向いた人物画

例は 69 右ページです。
複数の人物が向かい合った場合は、話し合いや訪問を示しています。そして向かい合った間に描かれた物が、話し合いの中身です。
この時、お客が左で主が右に座る約束があるようです。
たまに人物の名前や説明が上に書かれています。

(3)右方向だけ向いた人物画

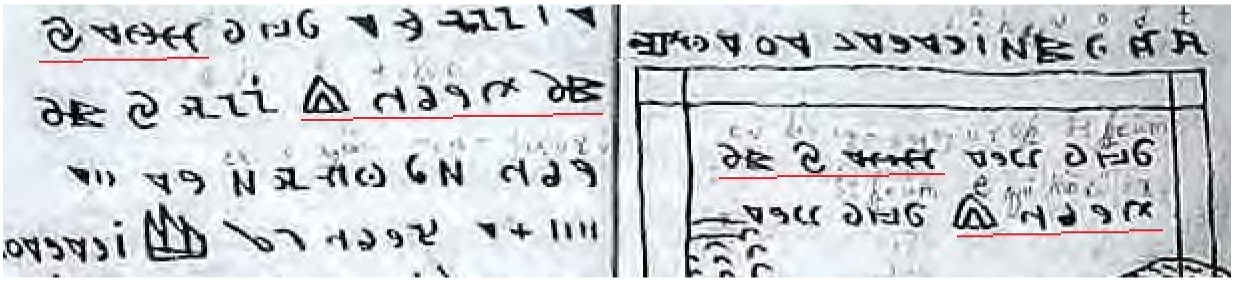
例は 113 左ページです。
右方向ばかりを向いている場合も、お祈りの場面ですが、対象は殆どが神か超自然的なものです。

この場合手に持っているのは根の出た種子でしょう。
そして太陽の恵みか干ばつへのお祈りでしょう。

レヒニッツ写本 考察05

本文と挿絵との関連。
今の所全くわかりません。ヴォイニッチに植物があるように、レヒニッツに神があるのかもしれません。

しかし、133ページには次の様に記載されています。



ここでは挿絵内の文章が本文中に現れます。何らかの関係を示しています。

本文中も、挿絵中も文章は上から下へ書かれたようです。

レヒニッツ写本 考察06

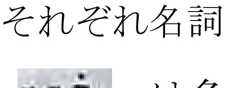
最初の一単語。
数年にも及ぶ相当な時間がかかると思いますが、まずは一つの単語を解読したいと思っています。

現在目標にしている文字は です。

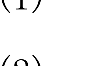
多分日本語の漢字の「主」と同じ意味だと思います。
宗教的に読めば特定の言葉となりますが、一般的には「おもな」や「あるじ」の意味になります。
単語の追加や語尾の変化で、日本語の「主婦」や「主人」と同様な意味の言葉になるようです。

レヒニッツ写本 考察07

語尾変化の初歩。

 これは132ページ左の一行目です。

それぞれ名詞と考えられますが、

 は多分主格で が変化形ですから、意味は、

(1) の

(2) に

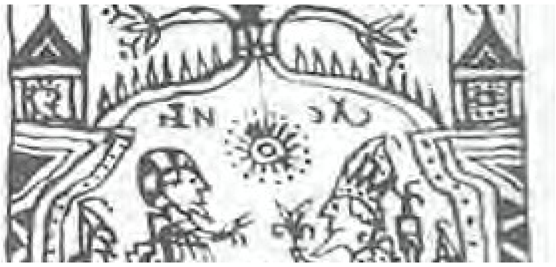
(3) 複数形 達

などとなるでしょう。

これは４５ページ左の挿絵です。相手が になっていますが、
意味は前記の（1）(2)(3）と同様でしょう。

レヒニッツ写本 考察08

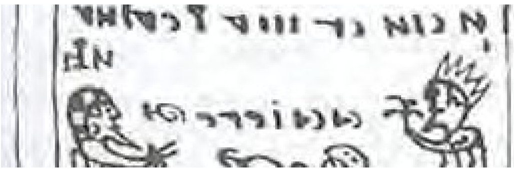
名詞と名詞。

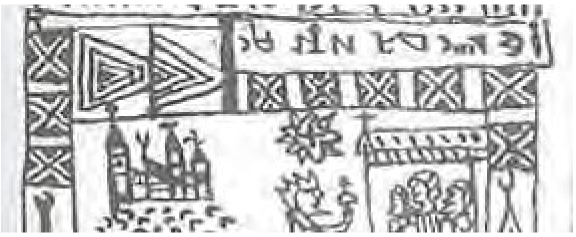


これは41ページ右の挿絵ですが、人物の上に文字があります。
固有名詞としては短い単語であり、また両単語とも単独で頻出します。
従って名詞と考えられ、単語としてはそれぞれ同格の物と考えられます。

恐らくは左は軍隊か宗教の代表者で、右は国か宗教の代表者でしよう。
客は左に描くとすれば、 は「お客」という単語ではないでしょう。

同様の挿絵は42ページ左や194ページ右にもあります。





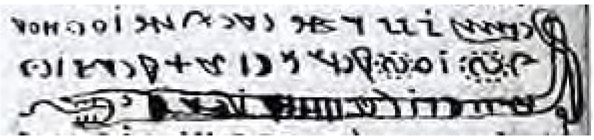
21ページ左には欄外ですが同様の単語があります。

そして、帽子の絵柄や形で身分を表しているようです。

レヒニッツ写本 考察09

本文中の所々に絵が描かれていますが、これらは大幅な書き損じがあった時の
訂正だと考えられます。

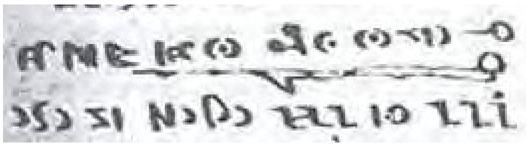
15ページ左



18ページ右

24ページ左

45ページ右



50ページ左

その他の例もありますが、小さな訂正らしきものも見られます。

これは訂正なのか、後日の人が隠すためだったのかは今は解りません。
また、小さな修正と見られるのは「固有名詞」か「絵文字」かも知れません。